

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

株式会社 地域計画連合

②事業者情報

名称：	アスクわかば保育園	種別：	保育所
代表者氏名：	藤松 智子	定員(利用人数)：	60 (60) 名
所在地：	〒 350-0214 埼玉県坂戸市千代田 3-21-23 ヴィラ・ボンセジュール若葉 1階	TEL	049-280-5777

③評価実施期間

平成27年 8月 1日(契約日)～平成28年 3月 31日(評価結果確定日)

④総評

◇特に評価の高い点

○栄養士が中心となり食育の年間計画が充実している

子どもたちとプランターや園庭の畑で栽培した野菜を給食に取り入れたり、クッキング保育では0歳～5歳児までの年齢毎のクッキングを計画し実施している。5歳児クラスでは野菜の栄養について勉強してきた内容を子どもたちが自分たちで作成した模造紙に野菜の絵とコメント記入したもので、親子クッキングの際に保護者に向けて成果を発表している。給食の展示と一緒に手書きの調理コメントも準備され、給食のレシピも自由に保護者が持ち帰られるように工夫しており、食への関心を親子で深めるとともに、健康な身体作りに向けて栄養士中心に全職員が積極的に取り組んでいることが感じられる。

○地域との交流を通じて保育園活動を伝え、互いに支え合う関係づくりが進んでいる

近隣の高校生や大学生との交流を進め、子どもたちの社会性などを育み、保護者の祖父母をボランティアとして受け入れ、園庭の整備や野菜作りの支援をしてもらうなど、子どもたちの身近な存在が保育園生活の中で活躍している。地域の子育て家庭を受け入れるふれあい保育や、地域の商店の協力を活かしたハロウィンや子どもたちの絵の展示、交番とのプレゼント交流など、地域交流を中心に園の保育活動を知ってもらい、相互の支援と協力につながる体制が構築されている。子育て家庭や居住者を対象とした講習や勉強会なども予定されており、地域の子育て施設としての活動に期待が持てる。

○運営に関する計画を定めて評価・反省を行い、子どもたちの自主性・自発性を育むためのおもちゃへの検討を進めている

中長期計画が策定され評価・反省を行い、各保育指導計画につながるよう配慮がなされている。また、第三者評価を毎年受審して改善点や課題などへの取り組みを職員間で検討・共有し、子どもたちの自主性・自発性につなげるおもちゃの見せ方やコーナー保育への取り組みの工夫を進めている。職員間でおもちゃをどのように見せ・提供していくかの協議を行い、おもちゃを棚を工夫して斜めに見やすく置いたり、マットなどを利用してコーナーを設定するなど、子どもたちが遊び込める環境の設定に活かしている。

◇特にコメントを要する点

○保護者や地域の子育て家庭を対象とした講習会などを企画するなど、さらに地域の福祉ニーズに基づき活動なども期待したい

感染症予防のために衛生面に心がけ、ブラックライトを使用しての手洗い方法の確認や職員が研修を受けているAEDを利用した救急救命の対応、食物アレルギーに関するアドレナリン自己注射の正しい使用方法についてなど、保護者や地域に向けて提供できる専門的な知識や技能などを必要に応じて伝えていくなどの取り組みを期待したい。また、食育に関しては保育園独自の取り組み方法などの発信や、近隣の栄養大学との良好な連携関係を活かして食育に関する講習会・勉強会などの企画も期待される。

○良好な職員間での話し合いを活かして、保護者からの要望への検討をさらに進めて計画として取りまとめ、園運営と保護者とのさらなる信頼関係に活かされたい

昼礼や園内研修を活かし、保育活動や室内環境の構成、施設の課題や取り組みたいことなどについて話し合いを行い、実践に活かしている。利用者調査では職員の子どもへの対応や戸外活動への取り組みに関して要望などが寄せられており、職員間での意見交換・気づきや提案などを募り、取り組みなどの具体的な検討や人材の育成、保育のさらなる向上を進められたい。また、これらの取り組みへの具体的な目標・達成指標などを整理し、中期計画として取りまとめ、園の運営に活かして保護者との信頼関係をさらに深められたい。

○保護者に向け保育への取り組みを丁寧に伝えており、保育計画の内容や各計画間のつながりを伝えて共有し、保護者からの支援や協力などに活かされたい

月間指導計画や週案を掲示して保護者に向けて保育計画の取り組み内容を伝えていくように努めており、子どもたちの生活の様子も日々のコミュニケーションなどを通して丁寧に伝えるよう心がけている。また、運営・保育理念などを行事の際などに伝えることで保護者からの理解と協力にもつながってきている。保育所での生活の基盤となる週案をわかりやすく整理し、保護者に伝えていくことで保育活動への配慮や工夫などの周知と理解をさらに促すことも検討されたい。さらに保育計画の基本となる保育課程と各指導計画とのつながりやおもちゃへの配慮・工夫も含めて保護者に丁寧に説明し共有することで、職員の保育への配慮や専門的な知識・技能などを知ってもらい、活動への支援や協力などに活かされたい。

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

今年度は、食育面での充実を図り、子どもたちが食に興味を持てる主体的取り組みを行ったことにより、子どもたちの意欲や自信につながり、保護者の方々にも大変好評で大きな成果となりました。また、室内環境の改善に着手し、職員間で共通認識のもと話し合いを進めることで、少しずつではありますが、子どもの自発性、創造性を引き出すことへの支援を着実に進めることができました。

今後はさらに地域の福祉ニーズに応え、保育園の取り組みや考え方が、保護者だけでなく地域の方へも伝わるよう情報交換ツールを活用し、積極的な情報発信の強化に努め、地域に開けた保育園を目指して参ります。

⑥各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり